

「糖尿病の検査の結果の見方に注意！」

HbA1cの検査結果の表記方法が新しくなりました

血液検査の結果を見ると「HbA1c」という項目があります。血糖の管理を行う上ではとても重要な項目で、糖尿病の患者さんだけではなく、一般の健康診断でも多くの方が、この検査を行っていると思います。

この検査の結果の表記方法が2012年4月から変更になりました。従来の表記方法をJDS値(ジェイディーエスチ)と呼び、新しい表記方法をNGSP値(エヌジーエスピーチ)と呼びます。「何が変わるのか?」と言いますと、同じ血液で検査をした場合でも、NGSP値の方が少し数字が大きくなります。例えば、HbA1cがJDS値で6.0%だった場合、NGSP値だとおおよそ6.4%になります。**(おおよそJDS値を+0.4%すると、NGSP値になります)**



別に数字が大きくなったから、血糖の状況が悪くなった、という事ではありません。同じ血液での検査ですので、もちろん、血糖の状況は同じです。**CKDの患者さんの場合、NGSP値ではHbA1cを6.9%以下にすることが大事になります。(今までのHbA1c(JDS値)6.5%に相当しますので、目標が変わったわけではありません。)**

では、なぜ、このような変更が行われたのでしょうか?それはNGSP値の方が国際的に標準的にもちいられているからです。HbA1cの検査結果にはJDS値なのか、NGSP値なのか、表記される事になっています。気が付かないと、急に数字が大きくなって、「あれ?糖尿病が悪くなった?」と誤解してしまいがちですが、そういう訳ではないので、くれぐれもご注意ください。

あなたの体のために、 月に1度はかかりつけ医を受診しましょう

FROM-Jの参加者として

長崎県 参加者 K. I 様



長崎県 N 医院は、私のかかりつけ医として、永年お世話になっており、FROM-J も当初から参加しております。

N 医院には、月 2 回の受診検診と薬の受領及び当院内での管理栄養士さんの定期指導並びに月 1 回の料理講習、試食会、更に椅子に座ったままの体操に気が向く時に参加しております。N 先生の優しく厳しい指導や、管理栄養士・体操の先生の教えを素直に受け入れて実行していれば、今頃は完治とまで行かなくても、病状もかなり良い方向に改善されていなくてはならないと思うのですが…。私は人の欲、特に食欲が旺盛で、その上、心に住む 3 匹目の天魔(別名あまのじゃく)が邪魔して一向によくなりません。ただ、FROM-J に参加以来、朝夕の血圧測定、管理栄養士さんの「野菜多め、炭水化物控え目」の教えと、体操の先生の教え通りではなく省略筋トレ等を時折思い出して行っている為か、急速な病状の悪化もなく、今日まで生かされております。これも N 先生、管理栄養士・体操の先生及び看護師のお蔭です。感謝、感謝です。

※FROM-J 通信次号(42号)の配信は、9月を予定しております。

FROM-J研究代表者 筑波大学医学医療系臨床医学域腎臓内科学 山縣 邦弘
〈お問い合わせ先〉 FROM-Jヘルプデスク TEL:0120-15-2664(平日 9:00~17:30)

※参加ご辞退のお申し出と行き違いに本紙がお手元に届きました場合は、ご容赦ください。